

第七回

書作展 芸術社



改

上田 雅堂

会期

平成二十六年三月二十八日(金)
～三十日(日)

会場

みやこめっせ 美術工芸ギャラリーB



龍
虎

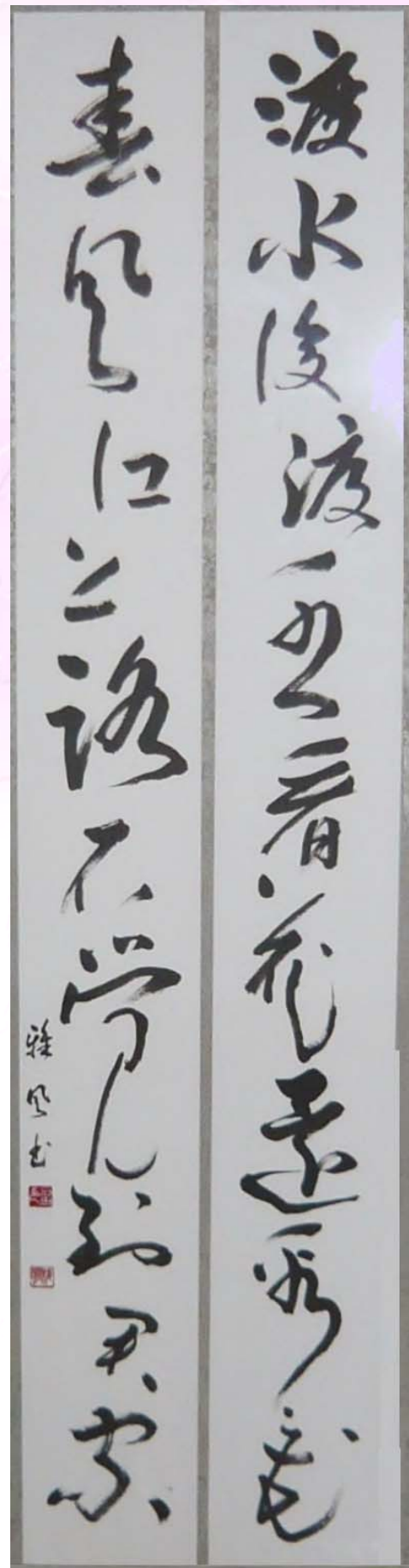
上田
雅堂



福寿海無量

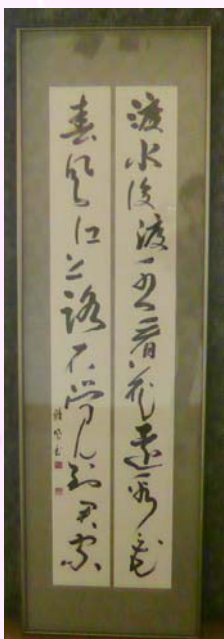
上田 雅堂

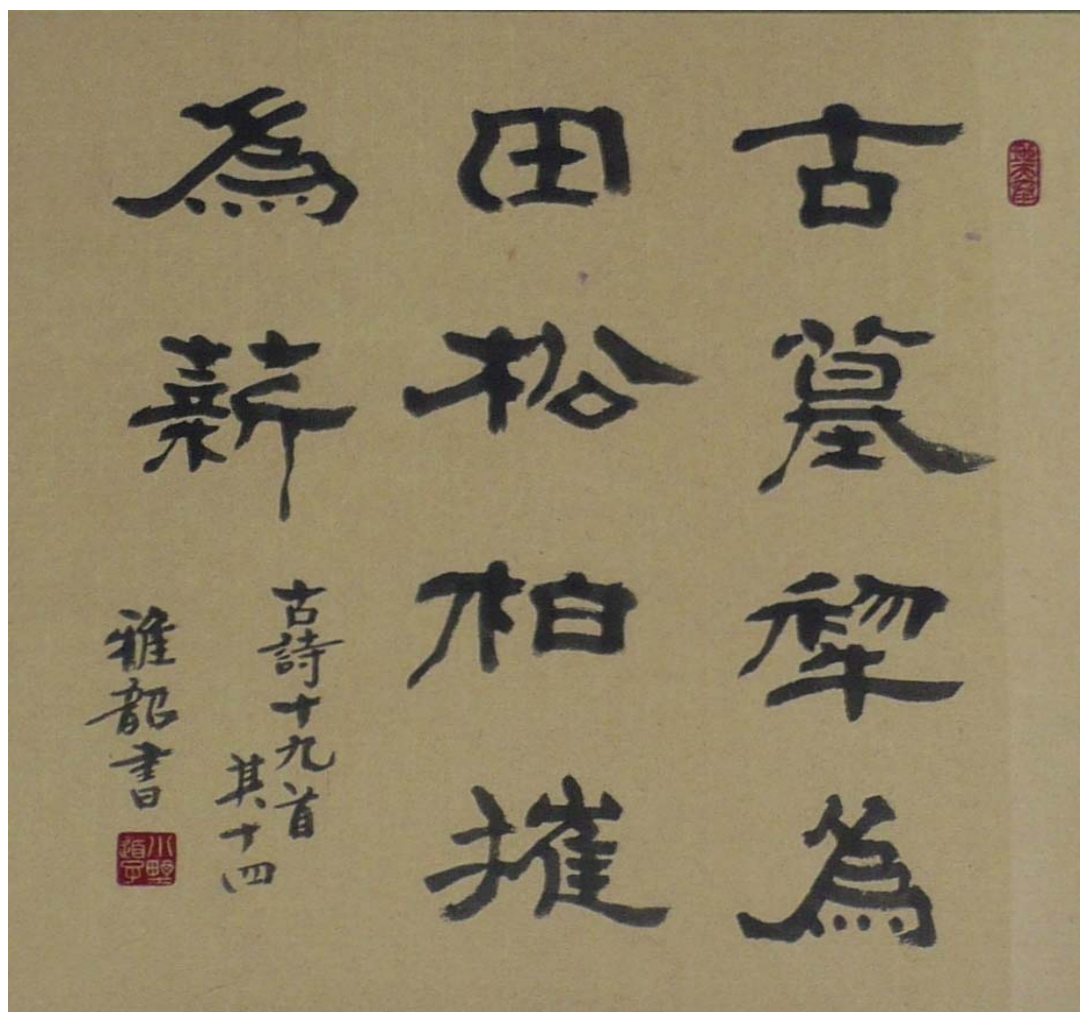




水を渡り復た水を渡り 花を看 還た花を看る
春風江上の路 覚えず君が家に到る (高青丘)

石田 雅風



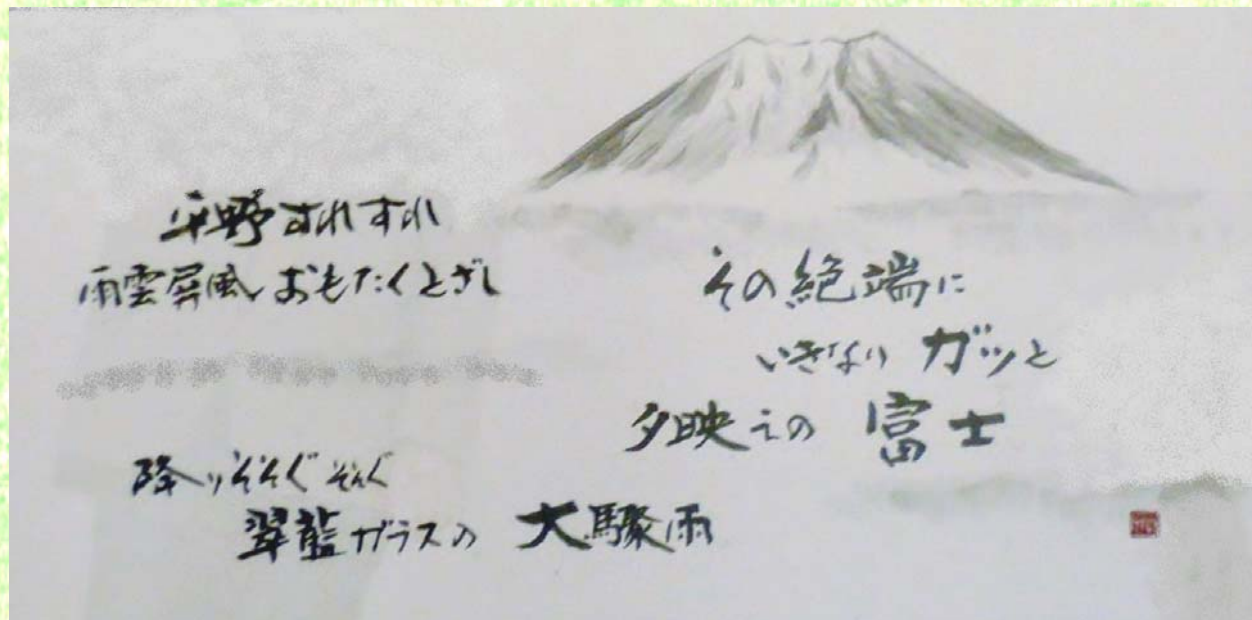


古墓は犁かれて田となり
松柏は推かれて薪となる

古詩十九首 其の十四

小野 雅韶





平野すれすれ
雨雲屏風おもたくとざし
その絶端に
いきなりガツと
夕映えの
富士
降りそぐそぐ
翠藍ガラスの
大驟雨

富士山 作品第貳拾壹

(草野心平)

小野 雅韶

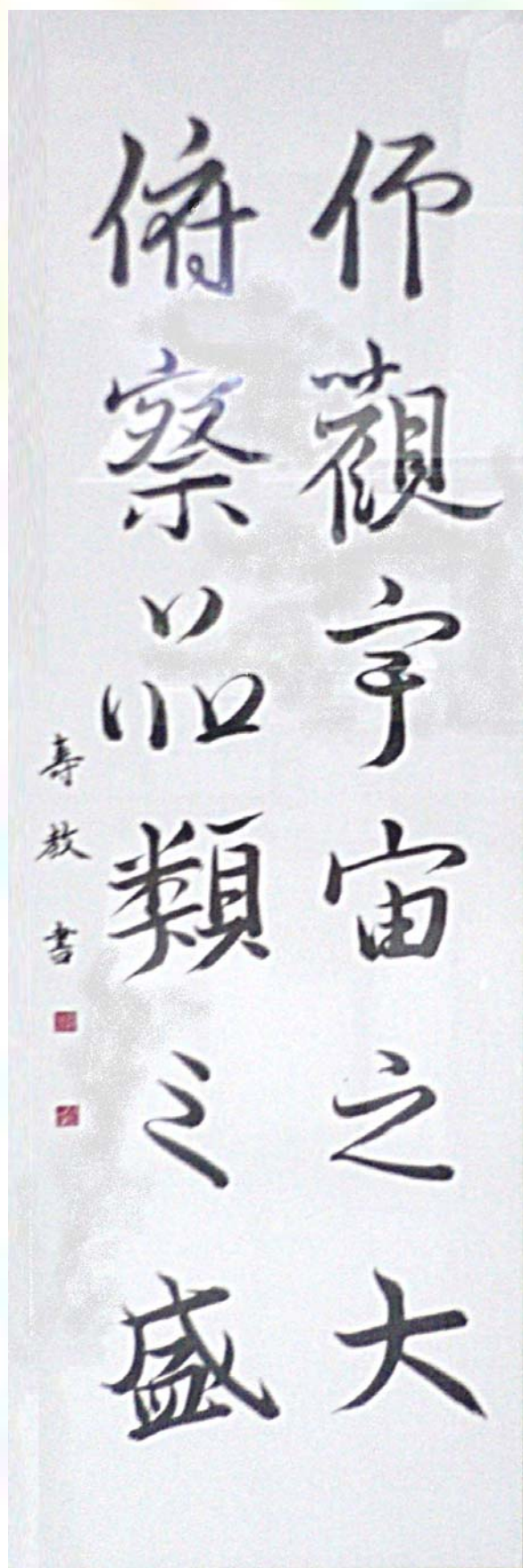




泥
中
の
蓮

今
井
利
幸

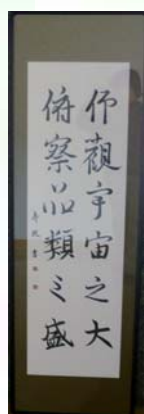


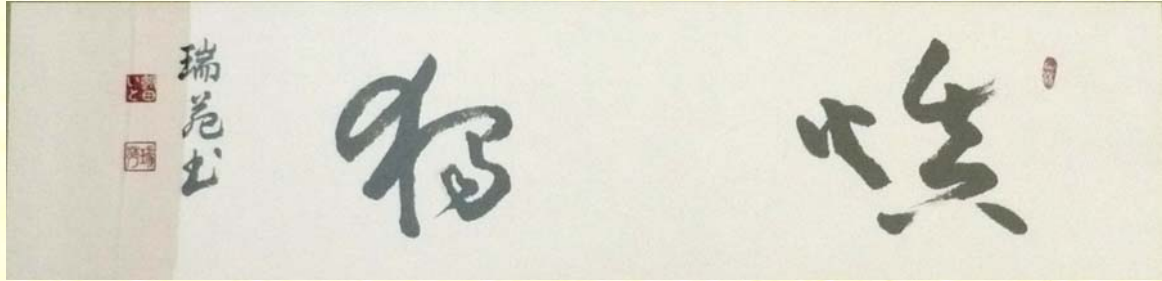


仰いで宇宙の大俯を觀
品類の盛んなるを察す

(蘭亭序)

北村 寿教

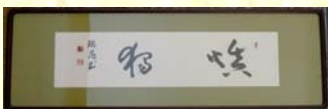




独りを慎む

(大学)

飯田 瑞苑



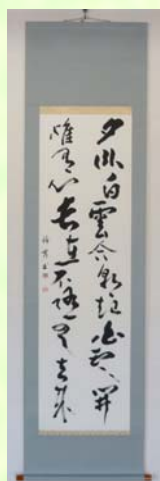
夕臥白雲合朝起白雲開
唯有心長在不悟之境界

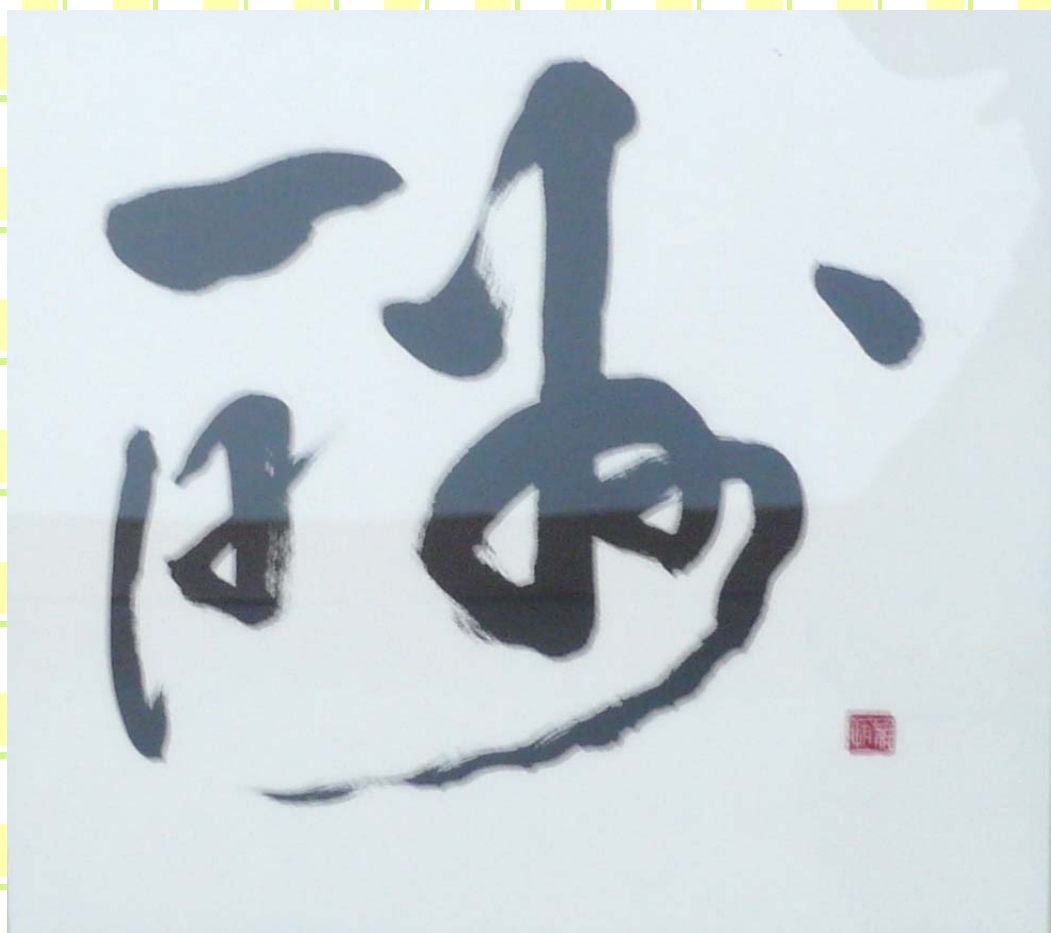
種芳書

夕べに臥せば白雲合し
朝に起くれば白雲開く
惟だ心の長に在る有り
雲に随いて去来せず

(高啓)

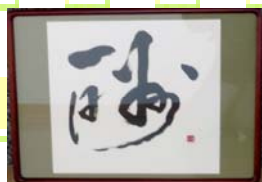
池田 敏子





酬

田中
雅恒





玄 游 社

京都市山科区竹鼻竹の街道町七二

上 田 雅 堂

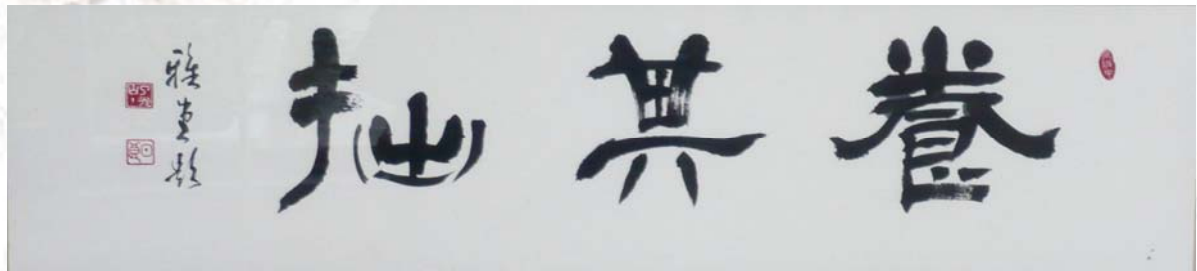


慈

上田

雅堂



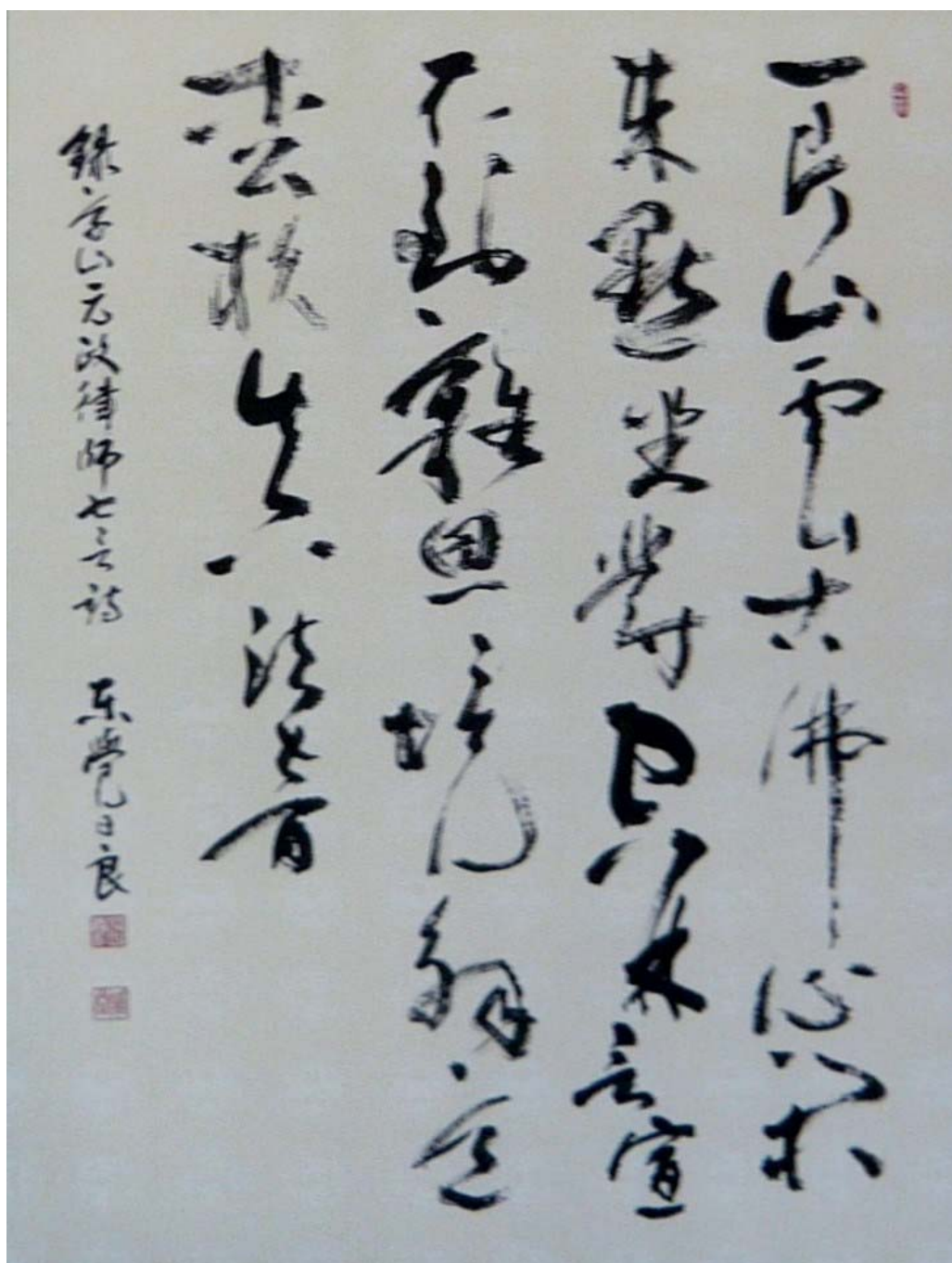


其の拙を養う

(呉鎮)

上田
雅堂





一片の山雲古佛の心
閑来黙坐して空林に対す
言宣到らず難思の境
道うことを解す
松杉真の法音

(元政)

上田 雅堂

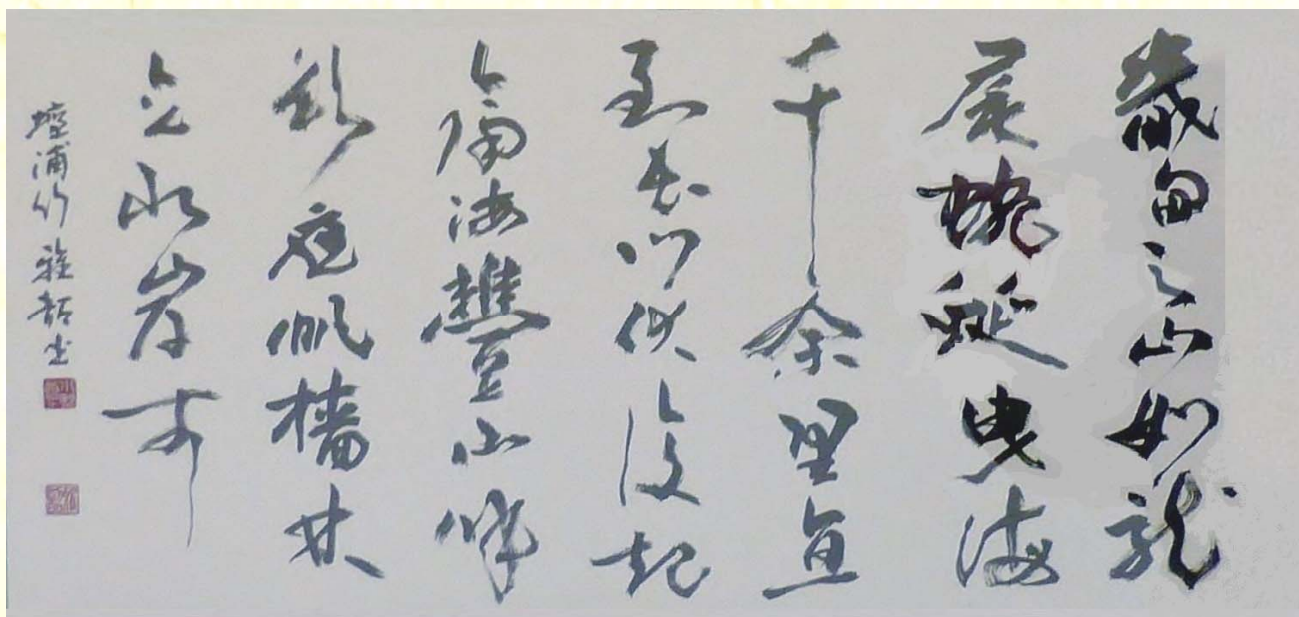




千秋萬歲
(瓦当文)

小野
雅韶



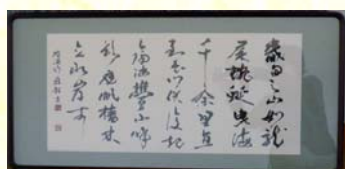


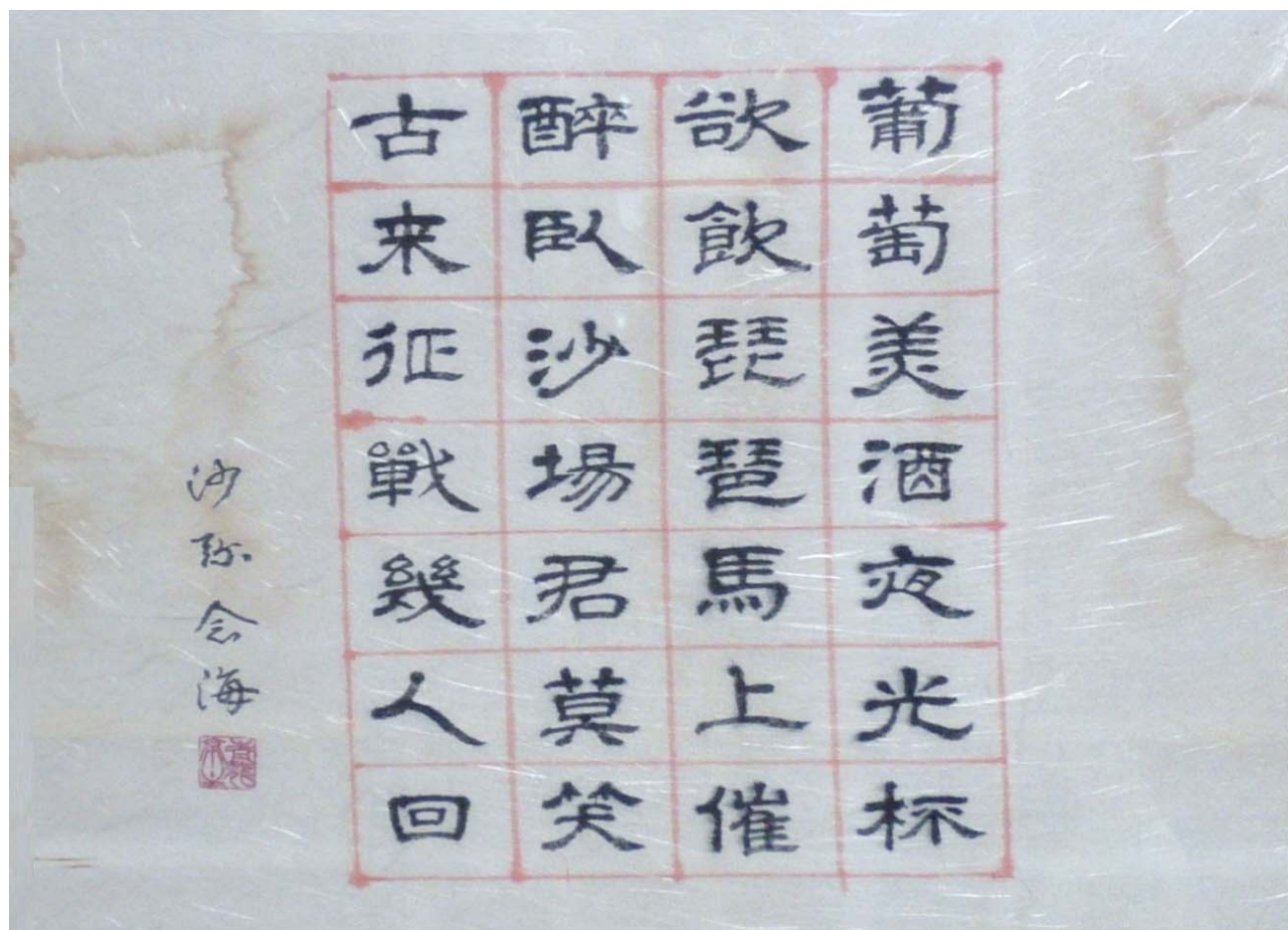
幾旬の山は龍尾の如く
 蜿蜒として海に曳くこと千余里
 直ちに長門に到りて伏して復た起ち
 海を隔つる豊山 呼べば騰へんと欲す
 帆檣林立す 北岸の市

壇浦行一

(頼山陽)

小野 雅韶





葡萄の美酒 夜光の杯
飲まんと欲して 琵琶
醉うて沙場に臥すとも
古來征戰 幾人か回る

(王翰)

馬上に催す
君笑う莫れ

青山 念海





衣
座
室

(法華經)

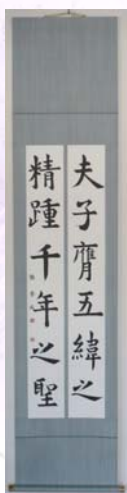
日暮
有宏

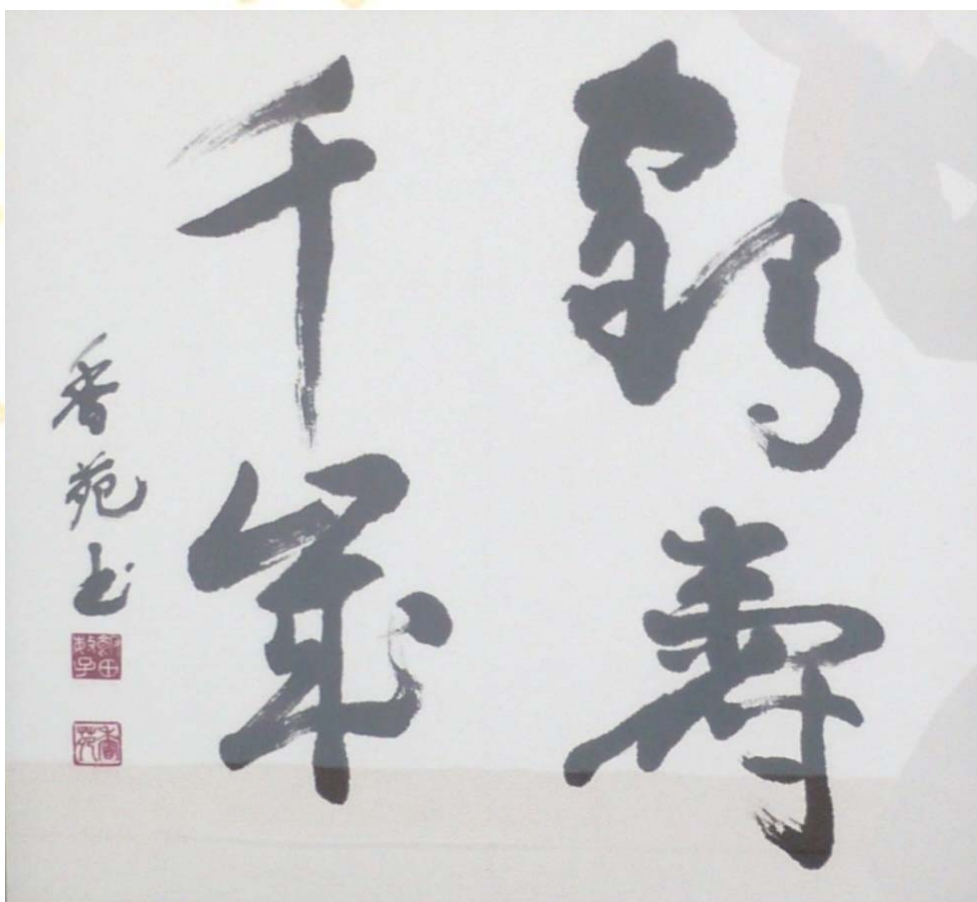




臨書 夫子は五經之精を膺け
千年之聖を踵ぐ (孔子廟堂碑)

菊岡 雅香





鶴
壽
千
歳

飯田
香苑



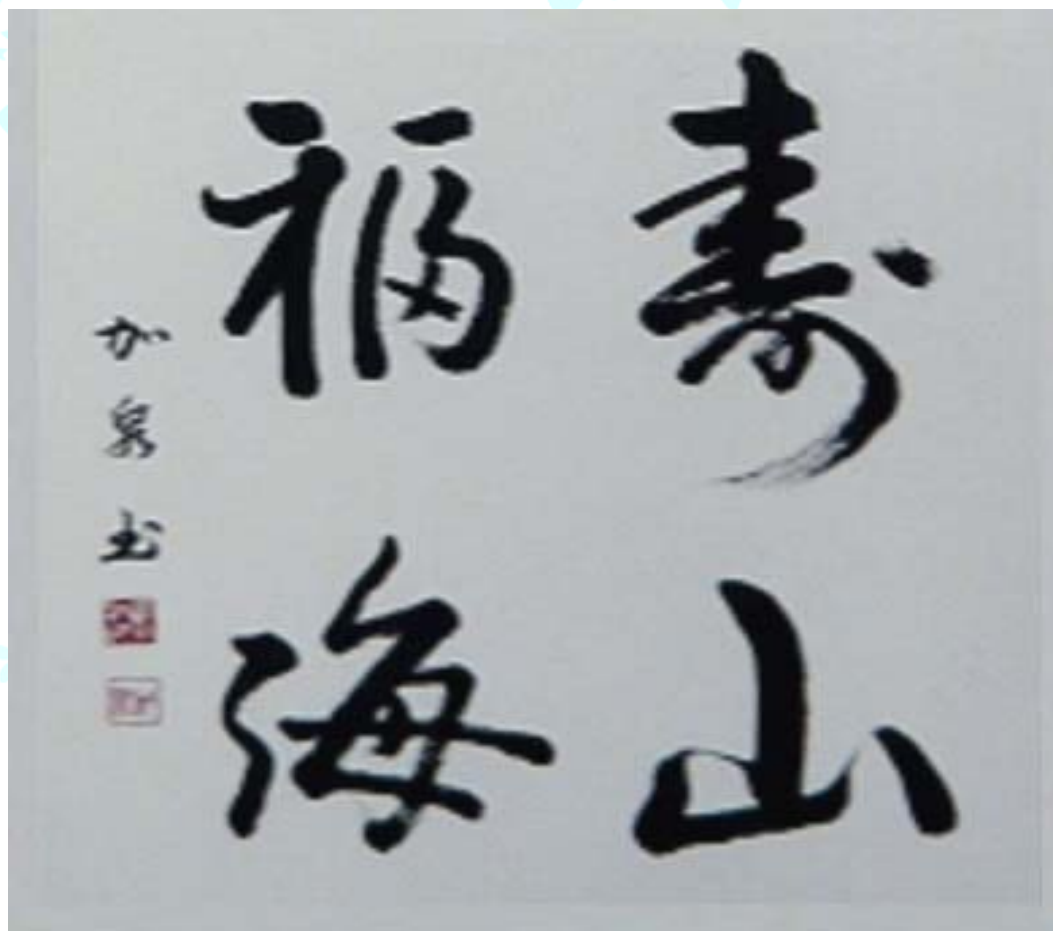
春色惱人眠不得
月是花影移上欄干

小田 艶翠

春色人を悩まして眠り得ず
月は花影を移して欄干に上らしむ
(王安石)

小田 艶翠





壽
山
福
海

西
谷
加
泉



GENYUSYA
2014/3